



## 中国都市部における高齢者施設の 入居者の家族状況に関する研究

横 浜 勇 樹

### 1. はじめに

中国国際放送局の2012年4月4日付<sup>(1)</sup>の報道によれば、北京市の高齢者の人口は近年、急増しており、60歳人口<sup>(2)</sup>は、2015年に320万人（人口のおよそ23%）を占めると報じた。また同時に後期高齢者の人口の増加も目覚ましく、80歳以上の人口は54万人（人口のおよそ4%）を占めることが予想され、その対応が迫られている。中国の高齢化率は、国際的な基準である65歳以上の人口の割合で見ても、2009年にはすでに18.2%に達しており、高齢社会に突入したと言えよう。都市部の高齢化率の増加は、北京市に限らず、（表1）に示すように、天津市、上海市などの政府直轄の都市でも進展している。中でも上海市の高齢化率は、北京市のそれを大きく上回っている。

また北京市では、一般市民の収入で入所できる公設の介護施設の不足が目立っており、毎月1,600円で利用できる介護施設においても1,100床に対して7,000人が入所を希望している状況であり、介護施設入所までの待機期間は10年以上と長くなっている。さらに、今後、北京市の介護施設入居への希望者のニーズを満たすためには12万床必要とされる中、施設の整備は2015年までにそのうちの半数の6万床にとどまる状況である。現代中国のこの状況は、1人っ子世代が4人の親を扶養していく時期が差し迫っていることを意味している。将来、親の扶養を子どもたちが、どこで、誰が、どのくらいの費用負担で継続していくことができるかは、大きな社会的な問題である。この問題は北京市政府も認識しており、「2010北京市の高齢者人口情報および

表1 中国都市部における高齢化の状況

| 都市名 | 総人口<br>(万人) | 高齢化社会に<br>突入した年度 | 高齢者人口<br>(万人) | 人口高齢化率<br>(%) |
|-----|-------------|------------------|---------------|---------------|
| 北京市 | 1,245.8     | 1990             | 226.6         | 18.2          |
| 上海市 | 1,379.4     | 1979             | 315.7         | 22.5          |
| 天津市 | 979.8       | 1988             | 171.2         | 17.5          |

出所：畢麗傑（2010）「中国都市部における高齢者介護の社会化」『立命館国際研究』、第23号(1)をもとに筆者作成。

高齢者事業発展に関する報告」によると、今後、15歳～59歳の生産年齢人口が60歳以上の高齢者と、14歳以下の子どもを扶養する場合、北京市の扶養係数は38.8%と高い率に達すると推計しており、中でも老年人口指数<sup>(3)</sup>は、26%に達すると予想され、この数値は、ここ4年間で最も高く今後も急増すると予測している。

2012年現在、北京市政府が進めている高齢者福祉政策は「9064」計画とよばれている。それは、2020年度末までに、90%の高齢者を社会のサービスを受けて在宅でケアをおこない、6%の高齢者は政府からの支援により地域のデイ・サービスセンターなどに通所してケアを受け、4%の高齢者が老人ホームなどに入居してケアを受けることを計画している。この計画からわかるように、多くの高齢者のケアを在宅で実施することを中心に据えた計画であることがわかる。このことは、先に述べたように、一人っ子世代の子どもたちが両親を扶養することを前提とした計画と予測され、中国の法律<sup>(4)</sup>に親の扶養は子どもの義務と明記されていることから、今後、子ども世代がどのように親世代である高齢者を扶養していくことが現実的に可能であるのか、また、高齢者は子どもたちに扶養されることについてどのように考えているのか、中国都市部の高齢者扶養は経済的な側面からだけでなく、家族の繋がりという視点からも注目される。

## 2. 中国都市部の高齢者施設の体系

経済発展が継続的に続いている中国都市部では、高齢者施設も近年、多様な形で設置運営されている。畢<sup>(5)</sup>の分類によれば、街道や市、区が設置した「公設」と民間営利企業が設置した「民設民営」に分けることができる。そして、「公設」はその運営方式により「公設公営」と「公設民営」に分けることができる。また「民設民営」は純然に民営方式である「民間営利」による運営と、近年、都市部を中心に広がっているNPO・NGOが運営する「非営利」による運営がある。「非営利」による運営は、運営方式は、「公設民営」と似ている部分もあるが、その財政の調達方式が各種の寄付金から支援を受けている点で、「公設民営」とは異なる。

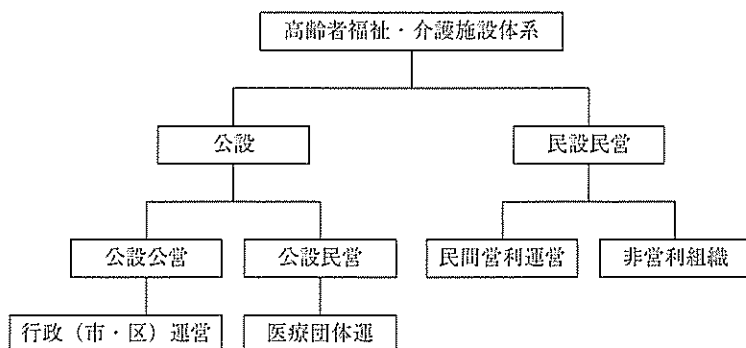


図1 中国都市部の高齢者福祉施設の体系

出所：畢麗傑（2010）「中国都市部における高齢者介護の社会化」『立命館国際研究』、第23号（1）。

## 2-1 中国都市部の高齢者福祉施設の分類

次に、中国都市部の高齢者福祉施設の機能的な分類を示したものが、(表2)である。この表より、高齢者施設は、「高齢者社会福利院」、「養老院・老人院」、「高齢者アパート」、「護老院」、「護養院」、「敬老院」、「託老所」、「高齢者福祉サービスセンター」に分類されているが、そのサービス内容には大きく違いが見られない。これは、中国都市部の高齢者福祉施設の区分が法的、制度的にまだ確立されていないことを表していると考えられる。すなわち、現時点では、発展段階にあると言える。筆者は、2003年度より継続的に北京市内の高齢者福祉施設や社区服務中心<sup>(6)</sup>を調査しているが、その結果からは、「高齢者社会福利院」と「敬老院」が、(表2)で示されるように、入居者の多くが貧困高齢者(三無高齢者)であった。しかし、入居高齢者のすべてが貧困高齢者ではなく、身寄りがあり年金を受給している高齢者であっても、地域の高齢者や街道や社区の紹介により「敬老院」を利用しているケースもあった。さらに筆者が2004年度に北京市内の社区を調査<sup>(7)</sup>では、地域の社区服務中心に付設している高齢者施設が「託老所」と呼ばれており、施設周辺に住所がある認知症の高齢者や寝たきり高齢者など、要介護高齢者が入居していた。そのことから、中国の高齢者施設の分類は、日本のような介護老人福祉施設や介護老人保健施設のように明確な入居基準が示されておらず、今後、中国の高齢者福祉施設の動向を見守っていく必要があろう。

表2 中国都市部の高齢者施設の分類

| 施設の種類   | 対象者                       | サービス内容                      |
|---|---------------------------|-----------------------------|
| 高齢者福利院<br>Social Welfare Institution for the Aged | ・「三無」の高齢者優先<br>・一般高齢者     | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 敬老院<br>Homes for the Elderly in the Rural Areas   | ・「三無」「五保」高齢者優先<br>・一般高齢者  | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 養老院<br>Homes for the Aged                         | ・自立高齢者<br>・要支援<br>・要介護高齢者 | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 高齢者アパート<br>Hostels for the Elderly                | ・自立高齢者                    | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 護老院<br>Homes for the Device-aided Elderly         | ・要支援高齢者                   | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 護養院<br>Nursing Homes                              | ・要介護高齢者                   | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 託老所<br>Nursing for the Elderly                    | ・コミュニティで暮らすすべての高齢者        | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション      |
| 高齢者サービスセンター<br>Center of Service for the Elderly  | ・コミュニティで暮らすすべての高齢者        | 生活支援、リハビリ、医療、リハビリテーション、訪問ケア |

出所：郭芳（2011）「中国農村地域における高齢者福祉施設に関する一考察：山東省J市の事例を通して」『同志社大学 評論・社会科学』、第97号、同志社大学。をもとに筆者作成。

### 3. 北京市における高齢者福祉施設の入居者の調査

中国都市部の高齢者施設は、その設置や運営方式は中国政府が公表しているものであるが、実際の施設の運営とその施設で生活している高齢者の状況を知る機会は少ない。日本において、中国の高齢者に関する調査研究は、年々増加しており、例えば地域で生活する高齢者を対象に生活実態調査をおこなった報告<sup>(8)</sup>や、農村の高齢者施設で高齢者にインタビューをおこなった報告<sup>(9)</sup>などがある。しかし、高齢者施設の高齢者を対象に調査票を用いた調査研究はほとんど見られず、中国の施設で生活している高齢者の生活の様子、家族との関係、そして身体、精神的状況を把握することは、中国都市部の高齢者福祉施設の在り方と今後の展開を考えるうえで重要と考える。

そこで、筆者は、実際の北京市内の W 敬老院と N 保健施設で生活している高齢者を対象に、調査票を用いて生活調査をおこなったので、その報告をする。

### 4. 調査施設の概要

W 敬老院と N 保健施設の概要を (表 3)、(表 4)、(表 5)、(表 6) に示した。W 敬老院、N 保健施設ともに北京市民政局が設置し運営している北京市直営の施設である。またそれぞれの施設の居室の費用や職員配置は、サービス内容と施設規模によって異なる。(表 2) の分類に従えば、W 敬老院は、貧困高齢者を優先的に入所させている施設であり、N 保健施設は、護養院に相当する施設と考えられる。ここでは紙面の関係上、W 敬老院の状況について詳述する。また N 保健施設は、2010 年 3 月に設置、運営された北京市で初めてのリハビリ専門の高齢者入所施設である。N 保健施設の院長によれば、本施設は、病院退院後のリハビリとターミナルケアを実施しているとのことであった。現在、専門的なターミナルケアは実施されていないが、今後は状況に応じてターミナルケアにも力を入れていきたいと話した。N 保健施設は日本の「介護老人保健施設」をイメージするとわかりやすい。運営費は年間 1,000 元の補助金が市からある。N

表 3 施設の概要

| 施設名称   | 設置       | 運営方式  | 事業内容 | 施設類型 |
|--------|----------|-------|------|------|
| W 敬老院  | 公立 (民政部) | 独立採算制 | 老人福祉 | 敬老院  |
| N 保健施設 | 公立 (民政部) | 独立採算制 | 老人福祉 | 护理院  |

表 4 居室の状況

| 施設名称   | ベッド数  | 一人部屋    | 二人部屋    | 三人部屋    | 四人部屋    |
|--------|-------|---------|---------|---------|---------|
| W 敬老院  | 32 床  | 1,500 元 | 1,100 元 | 1,300 元 | 1,300 元 |
| N 保健施設 | 200 床 | 3,000 元 | —       | 2,000 元 | 2,000 元 |

表 5 施設職員の状況 (人)

| 施設名称   | 職員数 (人)       | 職種 (人) |    |     |     | 有資格者<br>(%) | 退職後施設で<br>就職した者 (%) |
|--------|---------------|--------|----|-----|-----|-------------|---------------------|
|        |               | 行政管理者  | 医師 | 看護師 | 介護士 |             |                     |
| W 敬老院  | 8 (女 8)       | 1      | 1  | 3   | 3   | 7(87.5)     | 4(20)               |
| N 保健施設 | 35(男 7, 女 28) | 2      | 2  | 20  | 11  | 6(17.1)     | 2(5.7)              |

表 6 入居高齢者の概況 (人)

| 施設名称   | 入居者数<br>(人) | 男女の別<br>(人) | 年齢   |       | 身体状況 (%) |          |         |         |
|--------|-------------|-------------|------|-------|----------|----------|---------|---------|
|        |             |             | 最低年齢 | 最高年齢  | とても良い    | 良い       | 要支援     | 要介護     |
| W 敬老院  | 32          | 男 16・女 16   | 57 歳 | 108 歳 | 5(15.6)  | 19(59.3) | 6(18.8) | 2(6.25) |
| N 保健施設 | 40          | 男 10・女 20   | 60 歳 | 93 歳  | 0(0)     | 0(0)     | 5(25)   | 15(75)  |

保健施設についての詳しい内容は、拙論<sup>(10)</sup>を参考にさせていただきたい。

#### 4.1 W 敬老院

Z 区の北東部、低層の一般的な住宅が多くある一角に W 敬老院がある。施設は街道事務所の直轄施設である。設立は 1986 年で平屋作り、すでに 20 年近く経っている。院長は北京市民政部から派遣されている。施設の運営は公設民営であるが、施設内の大きな行事や建物の改修にかかわる費用は政府から年間 10 万元の補助金がある。このような福祉施設は政府から税金の優遇措置がある。敬老院の管理は「W 敬老院管理工作程序 (管理工程)」によっておこなわれている。その管理は 2 つの管理部面に分かれており、1 つは院長を頂点にしたサービススタッフの管理組織であり、もう 1 つは入居している高齢者たちの自治組織である。この 2 つの管理組織が話し合いをしながら施設のより良い運営をおこなっている。また、施設内の壁面には「工作人員職責 (職員の業務責務)」、「安全管理制度」、「老人獎罰評比条件 (入居している高齢者の生活態度と生活条件)」など、職員の職務規程が掲げられている。

#### (居住環境とサービス内容)

2011 年 8 月現在、入居者の居室は全部で 10 部屋 32 床あり、それぞれ 1 人部屋 (1500 元)、2 人部屋 (1100 元)、3 人部屋 (1300 元)、4 人部屋 (1300 元) に分かれている。この中に、高齢者の日常的な支援をおこなう基本サービス 660 元が含まれている。施設には基本的には重度の寝たきりや痴呆性高齢者は入居していない。そのような状態の高齢者は病院に入院する。高齢者の入居方法は、北京市内に限らず、他の地域の出身者であっても入居することができる。また高齢者の子どもの有無も入居には関係ない。入居者のなかには香港や台湾出身の高齢者もいる。

職員は、管理部門の院長 (主任) 1 人、医師 1 人 (常駐)、看護師 3 人、介護士 3 人、夜勤専門介護員 1 人である。ケアワーカーのような介護スタッフはこの施設には配置されていない。高齢者の主な日課は以下のようなものである。この日課は時間の差異はあるが多くの入所施設でも同様

である。

|        |             |
|--------|-------------|
| ・起床    | 7:00        |
| ・朝の体操  | 7:00～ 7:30  |
| ・朝食    | 7:30～ 8:30  |
| ・図書閲覧  | 8:30～ 9:30  |
| ・自由時間  | 10:00～11:00 |
| ・昼食    | 11:30～12:00 |
| ・午後の休憩 | 12:30～15:00 |
| ・自由時間  | 15:00～17:00 |
| ・夕食    | 18:00～18:30 |
| ・テレビ鑑賞 | 19:00～21:00 |
| ・消灯    | 22:00       |

#### (活動プログラム)

この施設には比較的元気な高齢者が入所していることもあり、さまざまな活動プログラムが実施されている。例えば、マージャン、舞踊、近隣の公園にハイキング、卓球などである。そして大学生や地域のボランティアが土曜日、日曜日に施設を慰問して、高齢者と一緒にこれらの行事を楽しんでいる。普段は活発に地域のボランティア活動があるわけではない。また、近隣の高齢者が施設を訪ねてきて談笑することもあまりない。

#### (入居者の状況)

入居者は2011年8月現在で32人。男性16人。女性16人。平均年齢は76歳である。主な入居の理由は①五保戸。②身体の調子を崩したが介護者がいない。③夫婦のどちらかが死別。④子どもの勧めによる(子どもが忙しい)。⑤高齢者自身の希望。⑥夫婦で入居、である。このうち数人の「五保戸」<sup>(11)</sup>と退職後の孤独老人に、入居の状況の話を聞くことができた。施設には社救孤老(社会からの救済の必要性がある高齢者)は9人、そのうち五保戸は1人、その他8人は退職孤独老人である。

#### ①五保戸の高齢者

男性・57歳。現在すこし痴呆症状が出現している。入所前は親が面倒をみていたが、親が高齢になったため面倒をみるができなくなったので、民生部からの要請で入所した。この入居者の衣食住に掛かる費用は月額660元が民生部から措置されている。

②退職孤独老人（入居生活費用を単位からの退職金など補っている）

- A さん・女性・86 歳。以前は宝石工場の労働者、会社が倒産したため失職した。身体、精神的には健康である。入居費用のうち 100 元は以前の単位が補填している。
- B さん・男性・93 歳。以前は床屋を営んでいた。痴呆症状が出現し始め入所。自分の不動産を売却して入居費用に充てている。
- C さん・女性・94 歳。20 歳で結婚してからずっと仕事をしてこなかった。子どもも無くこれまで夫の貯金から入居費用を捻出している。
- D さん・男性・75 歳。元中学校の教員。結婚していない。住宅手当を単位から受けており、入居費用は退職金の形ではなく、単位から必要な生活費が半年に 1 回の割合で入金される。

（施設運営の課題と今後の展望）

聞き取りをおこなった院長によれば、現在、多くの北京市の高齢者入所施設が共通して経費の問題を抱えている。それは、施設は高齢者からの費用徴収が少なく、独立採算制で運営しているため、高齢者に対して多くのサービス提供ができないということである。施設では収入が少ない反面、行事などにかかわる出費が多い。今後、利用者へのサービスの質の低下を招くことが心配であるとのことであった。また、どの施設も施設敷地面積が狭く、施設整備をしたくてもなかなかできないという悩みがある。

今後の北京市の高齢者施設の展望としては、現代中国では高齢者を家庭内で面倒をみるのが少なくなり、社会的に介護するニーズが高まりつつある。政府は、高齢者福祉施設の設立に力を入れており、また民間企業や非営利組織が設立する高齢者施設も設置されつつある。経済発展のもと北京市内への労働者人口が多く流入しており、また子どもが海外で仕事をする機会が増加するなど、これまでの伝統的な中国の家庭の機能が変化してきている。今後ますます家庭内での高齢者介護は困難になる一方、高齢者施設の設置を政府のみに依存することは難しいのではないかと、とのことであった。

## 5. 調査の目的

調査は、北京市内の高齢者施設の機能の違いにより、入居者の状況にどのような差異があるか、また施設に入居している高齢者の家族との関係、本人の身体・精神的な状況を把握することを目的に実施した。調査対象は、W 敬老院と N 保健施設に入居している高齢者を対象におこなった。

### 5-1 調査方法と倫理的配慮

筆者が日頃から研究活動で協働している中国老齡科学研究所の陶立群氏から北京市内の一般的



な公設の施設を紹介していただき、その中から調査に協力をしていただける旨の承諾をいただいた9ヶ所の敬老院から、無作為選んだW敬老院にて調査をおこなった。また、N保健施設については、北京市内で初めて設置された新設の老人保健施設であることから、一般的な高齢者施設であるW敬老院との比較のために選定して、調査をおこなった。

調査は、河北大学の呂先生、中国老年学学会の協力のもと両施設で生活している高齢者に調査票を用いて聞き取り調査をおこなった。W敬老院では、全高齢者32人のうち、調査に協力していただける31人（男性15人、女性16人、全入居者の97%）から回答を得ることができた。N保健施設においては、入居高齢者の体調に配慮し、調査に協力していただける方20人（男性11人、女性9人、全入居者の50%）を対象に調査を実施した。対象者の平均年齢は、W敬老院は76歳（SD=11.2、最低年齢57歳、最高年齢108歳）、N保健施設は82.1歳（SD=8.55、最低年齢60歳、最高年齢98歳）であった。高齢者の入居年数は、W敬老院は、「2年以上3年未満」の者が29%と最も多く、「5年以上10年未満」の者が19.3%で多かった。「10年以上」居住している者も12.9%いた。N保健施設は、設立されたばかりであるため入居者のすべてが「1年未満」の者であった。

調査は2010年8月16日～8月27日の期間で実施した。なお本調査は以下の手続きにより、調査対象者への倫理的配慮をおこなった。まずN保健施設およびW敬老院を管轄する北京市民政部宛てに、2010年3月、調査の目的、内容について文書と口頭にて説明するとともに、聞き取り調査への協力を依頼した。その結果、2010年5月、当局より両施設での調査が許可された。筆者は2010年8月16日にN保健施設、8月17日にW敬老院において、それぞれの施設長および施設の主任の同席のもと、すべての入居高齢者に対して本調査の目的、内容および結果の公表について文書と口頭にて、調査への同意を得るための説明をおこなった。その内容は、1) 調査の承諾は高齢者の自発的な意思の同意によること、2) 筆者が外国人であることから聞き取り調査は施設のスタッフと一緒にこなうこと、3) 調査は高齢者のプライバシーに配慮し、それぞれの負担にならないように短時間で実施すること、4) 調査は高齢者の体調の変化、および調査協力への意思変更に応じて実施すること、5) 調査で知り得た情報は研究目的以外では一切使用しないこと、6) データの公表については個人のプライバシーにじゅうぶん配慮し、事前に高齢者の承諾を得たうえでこなうこと、7) 収集したデータは個人が特定されないよう厳重に保管し、研究終了後はすべて処分すること、以上について文書と口頭にて説明し、調査対象の高齢者すべてから同意を得た。

## 5-2 調査票

調査票は、筆者が2004年に北京市内の高齢者施設を調査<sup>(12)</sup>した際に用いた調査票を改編し、また中国老齡科学研究中心が中国全土で実施した高齢者の実態調査「中国城乡老年人口状况一次性抽样调查数据分析」（中国標準出版社2003）をもとに作成した。項目は、「施設の組織の概要」、「施設のスタッフの状況」、「高齢者の基本的状況（性別、年齢、入居期間、仕事の状況、収

入の状況など」、「所属していた単位（職場）の状況」、「加入している保険の状況」、「家族の状況」、「身体・精神的状況と病気の状況」、「施設のサービスの状況」、「施設での日常生活の状況」および「自由記述」である。

## 6. 調査結果

本報告は、入居者の家族の状況と身体・精神的状況についてその概要を報告する。なお、入居者の仕事と収入の状況については、拙論<sup>(13)</sup>を参照されたい。

### 6-1 施設入所理由

入所の理由について聞いた結果を図2に示した。W 敬老院では、「自分の意思」が最も多く、48.4%であった。次いで「子どもたちの意思」29%、「身体的な問題」12.9%であった。一方、N 保健施設では、「身体的な問題」が70%と最も多く、次いで「自分の意思」の30%であった。両施設の機能的な違いがこの結果に表れていると考えられた。

### 6-2 入居者の家族の状況

入居者の両親の状況を図3に示した。両施設ともに両親が「不在」が多くの者で占められた。しかし、N 保健施設は、「父母健在」が5%と若干の割合でいることがわかった。

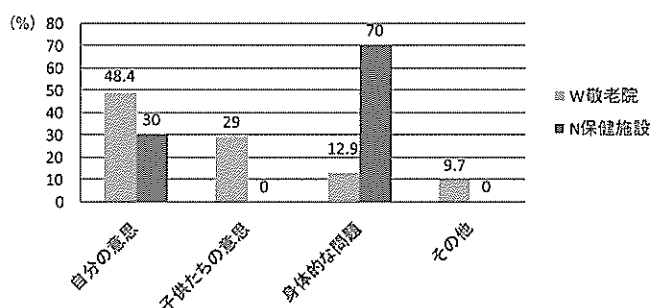


図2 入所理由

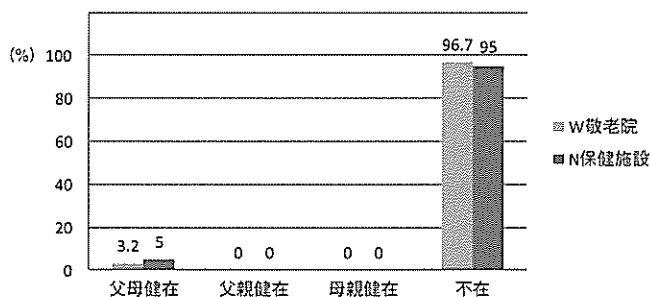


図3 両親の状況

子どもや孫の状況を図4に示した。両施設ともに「娘がいる」者の割合が75%前後と多かった。「息子がいる」者の割合は、W 敬老院が77.4%、N 保健施設が50%でW 敬老院の割合が多かった。また、「孫がいる」者の割合は、W 敬老院が25.8%、N 保健施設が10%とW 敬老院の割合が多かった。

同居家族の状況を図5に示した。「配偶者」と同居していた者の割合は、N 保健施設が65%、W 敬老院が38.7%とN 保健施設の者の割合が多かった。また「息子」と同居していた者の割合は、W 敬老院が45.1%、N 保健施設が10%で、W 敬老院の者の割合が多かった。これは、N 保健施設の入居者がW 敬老院よりも若いことがその要因と考えられた。

身内との交流の状況を図6に示した。両施設ともに交流が「ある」とする者の割合がとても

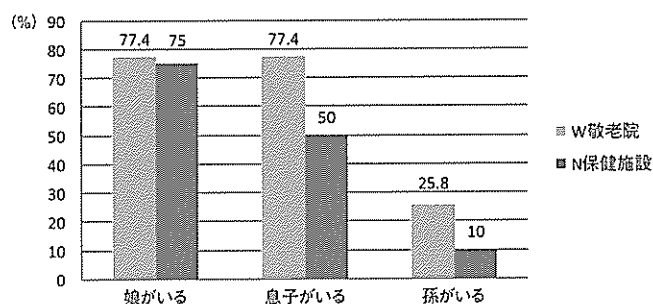


図4 子・孫の状況（複数回答）

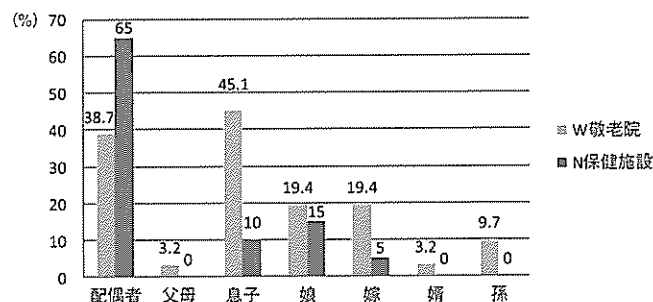


図5 同居家族（複数回答）

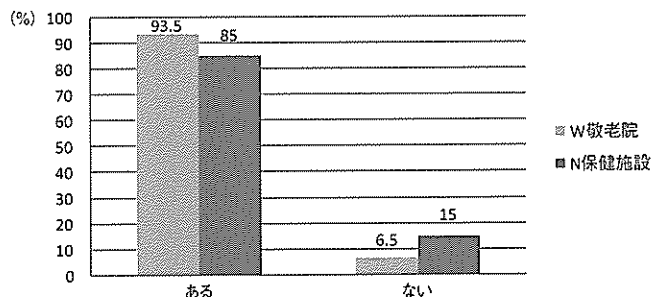


図6 身内との現在の交流

多く、W 敬老院は 93.5%、N 保健施設は 85% であった。一方、N 保健施設では、交流が「ない」者の割合も 15% ほどあった。

### 6-3 家族との交流

交流している相手について複数回答で聞いた結果を図 7 に示した。その結果、W 敬老院は「息子」が 51.6% と多く、ついで「娘」「配偶者」の 25.8% であった。一方、N 保健施設は、「娘」が 14% と最も多く、次いで「息子」の 8% であった。「嫁」の割合は、両施設ともにほとんどなかった。

交流の発信元について聞いた結果を図 8 に示した。「自分から」は W 敬老院では 64.5% と多いのが特徴的であった、一方、N 保健施設では 10% と少ない。「相手から」は N 保健施設が 90% と最も多く、W 敬老院は 35.5% であった。

交流の頻度について聞いた結果を図 9 に示した。N 保健施設は、「1 週間に 1 回」の割合が 70% と最も多く、次いで、「2、3 日に 1 回」の 20% で多かった。一方、W 敬老院は、「1 か月に 1 回」の割合が 54.8% で多く、次いで「1 週間に 1 回」29% で多かった。また、両施設ともに「毎日」交流している者の割合も少なからずあった。そして「3 ヶ月に 1 回」以上の長期間に 1 度の割合での交流の頻度は、両施設ともになかった。

交流の方法について複数回答聞いた結果を図 10 に示した。W 敬老院、N 保健施設ともに相手が「来所する」の割合が 90% 前後と最も多かった。N 保健施設は、「電話」の割合も 90% と

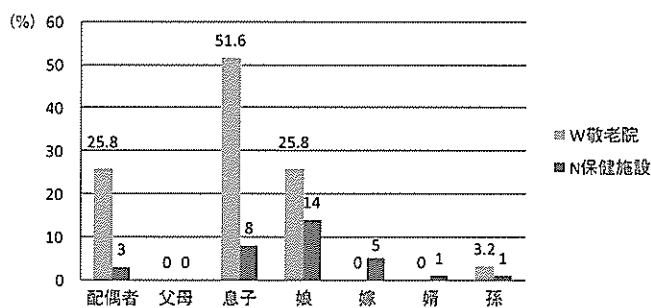


図 7 交流相手（複数回答）

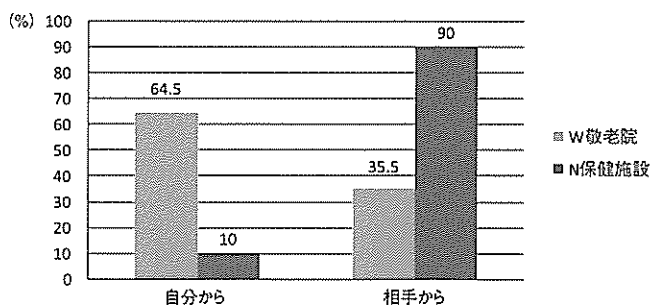


図 8 交流の発信先

多く、W 敬老院は 16.1% と少ない。

交流した際のおもな話題について、複数回答で聞いた結果を図 11 に示した。W 敬老院では、「挨拶程度」が 67.7% と最も多かったが、N 保健施設では 5% と最も少なかった。「自分の健康状態」は、W 敬老院が 45.2% と多く、N 保健施設では回答した者がいなかった。「子どもの健康」については、両施設ともに 25% 前後であった。「孫の生活」については、N 保健施設で 20% を占め、W 敬老院では 12.9% であった。

#### 6-4 家族との同居の希望

将来の子どもとの同居の意思について聞いた結果を図 12 に示した。W 敬老院、N 保健施設

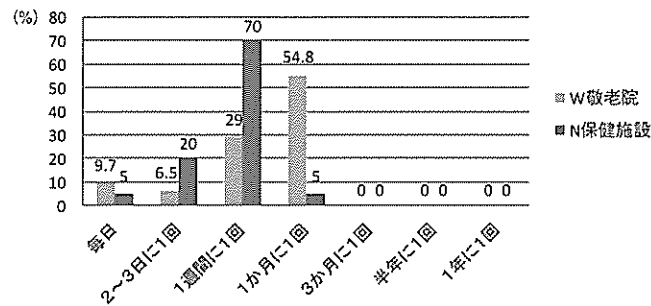


図 9 交流の頻度

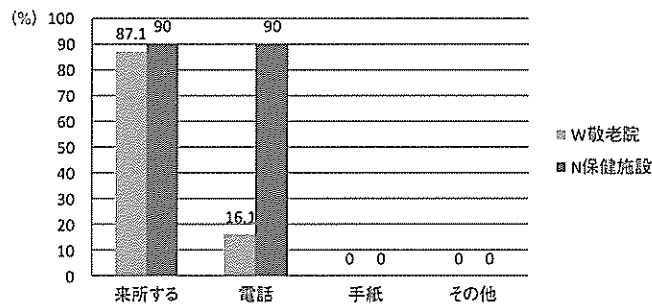


図 10 交流の方法 (複数回答)

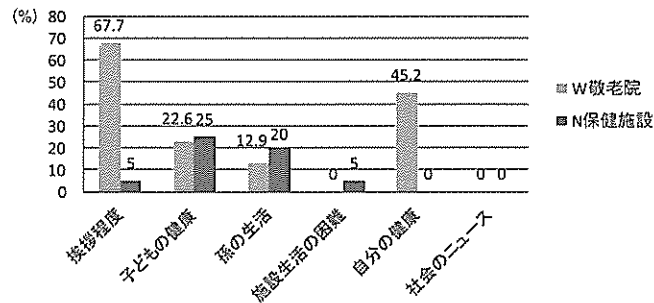


図 11 主な話題 (複数回答)

ともに「希望しない」者の割合が75%を占め、最も多いのが特徴的であった。「希望する」者の割合も20%前後を占めた。また、「わからない」とする者も少なからずいた。

同居を希望しない理由について、複数回答で聞いた結果が図13である。W 敬老院、N 保健施設ともに、「子どもたちの手を煩わせたくない」とする理由が最も多く、N 保健施設は75%、W 敬老院は58.1%を占めた。W 敬老院は、「子どもたちの生活習慣に慣れない」とする割合も38.7%あった。その他、「今の生活が楽しいから」がW 敬老院で9.7%、N 保健施設で5%と少なからずいた。「嫁姑の関係が煩わしい」もW 敬老院で3.2%と少なからずいた。

## 6-5 身体・精神的状況と健康状態

施設での生活で使用している福祉機器の状況について、複数回答で聞いた結果が図14である。N 保健施設では、「車いす」使用者が95%、W 敬老院では、9.7%と両施設の特徴を反映した結果となった。

身体の状態について聞いた結果を図15に示した。N 保健施設では、「生活の多くに介助を要する」が80%を占め最も多かった。また、「日中ベッドで過ごすことが多い」も20%を占め、N 保健施設の利用者は多くの介助が必要なことがわかる。一方、W 敬老院は、「1人でバスやタクシーで外出可能」が38.7%を占めて最も多く、「身の回りのことは1人でできる」19.4%、「近距離程度なら1人で移動できる」12.9%など、身体的な自立度が高い高齢者も多く入居して

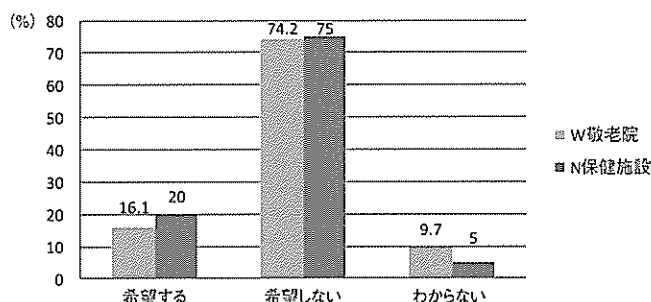


図12 将来の子どもとの同居の意思

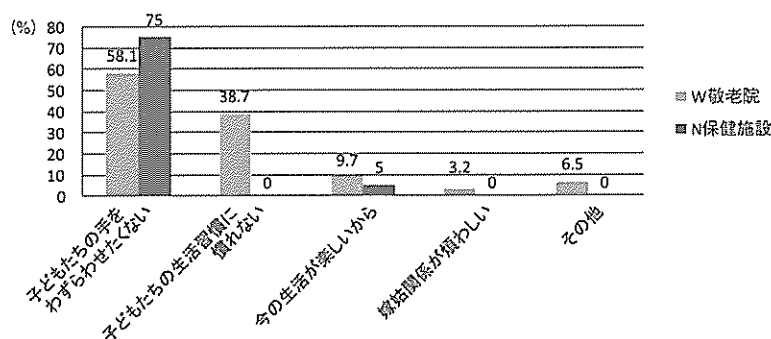


図13 同居希望しない理由（複数回答）

いた。

健康状態についての自己評価の結果が図 16 である。N 保健施設では入居者の状態を反映して、「あまりよくない」が 75% を占め最も多かった。W 敬老院においては、「ふつう」54.8%、「あまりよくない」29% の順で割合が多かったが、「わりと良い」6.5% を除けば、健康状態が「とても良い」とする者はいなかった。

疾病について複数回答で聞いた結果が図 17 である。W 敬老院、N 保健施設ともに、割合は異なるものの、「高血圧」が最も多くの割合を占めた。また「糖尿病」、「脳血管疾患」、「心臓病」、「腎臓病」、「リウマチ」などの疾患についても割合は異なるものの、両施設の高齢者が有し

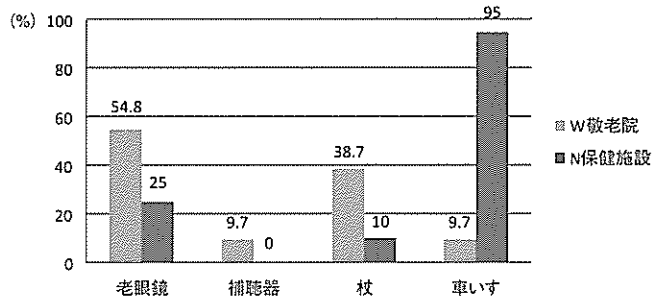


図 14 福祉機器の使用状況（複数回答）

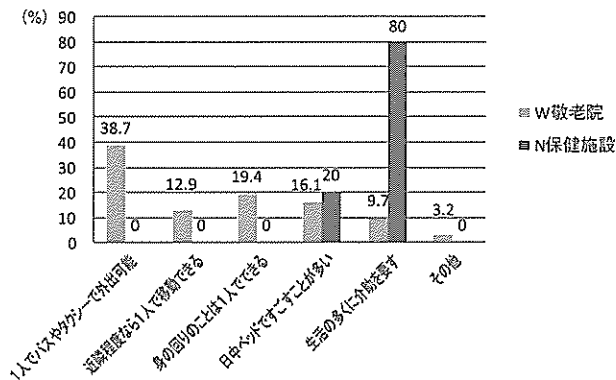


図 15 身体の状態

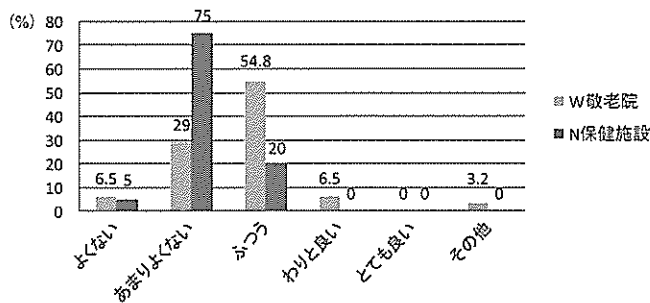


図 16 健康状態の自己評価

ていることがわかった。

## 6-6 施設の生活

施設の満足度の結果を図 18 に示した。W 敬老院、N 保健施設の両施設で「わりと満足」、「とても満足」の割合が多く満足度が高いことがわかった。W 敬老院では、「わりと満足」77.4 %、「とても満足」22.6 %であった。N 保健施設では、「わりと満足」、「とても満足」ともに 50 %を占めた。

日常生活で困っていることを、複数回答で聞いた結果を図 19 に示した。要支援状態の入居者が多い W 敬老院では、「通院」が 51.6 % ともっと多く、病気になったときへの対応をあげる者の割合が多かった。これは、「病気のこと」が 19.4 % 占めたことからわかるように、入居者自身が疾病に関して多くの悩みを抱えていることが明らかになった。W 敬老院では、「買い物」29.2 %、「家事ができない」25.8 %、「軽作業」19.4 %、など日常生活を豊かにするための事項についても、実現されないことへの不満があらわれていた。

施設利用の利点について、複数回答で聞いた結果が図 20 である。「職員の対応」が W 敬老院、N 保健施設の両施設で 100 % 近くの割合を占め、満足度が高いことがわかった。「皆で食事ができる」についても、両施設でその割合が高く、特に N 保健施設では 90 % と多くの割合を占めた。N 保健施設では、施設の機能を反映して「リハビリ機器がある」90 %、「健康管理に役

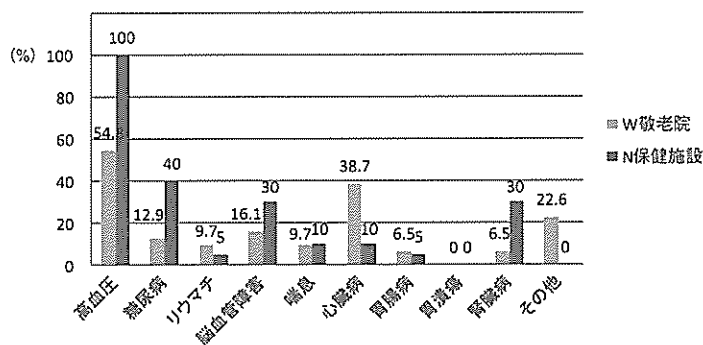


図 17 疾病の状況（複数回答）

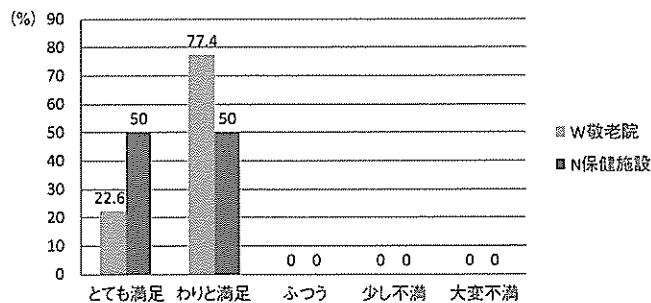


図 18 施設の満足度



立つ」60%とその割合が多い。W 敬老院では、「利用料金が安価」が67.7%と多くの割合を占め、「雰囲気が良い」54.8%、「友人ができる」48.4%、「人々との交流ができる」45.2%と、他者とのコミュニケーションについて満足している者の割合が多い。

余暇の過ごし方について聞いた結果が図 21 である。W 敬老院、N 保健施設ともに「テレビを見る」が最も多い。W 敬老院では、「囲碁・将棋」38.7%、「読書」29%、「散歩」22.6%、

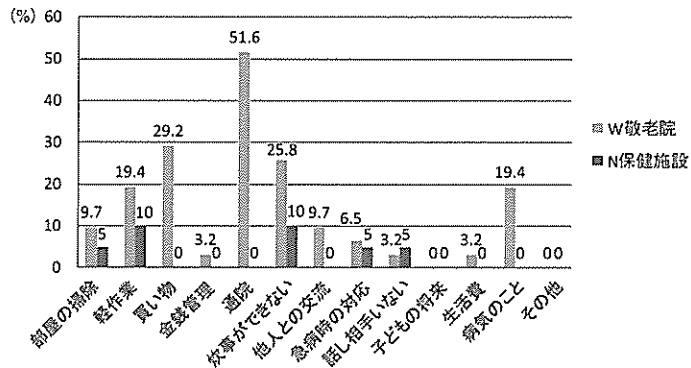


図 19 日常生活での困難（複数回答）

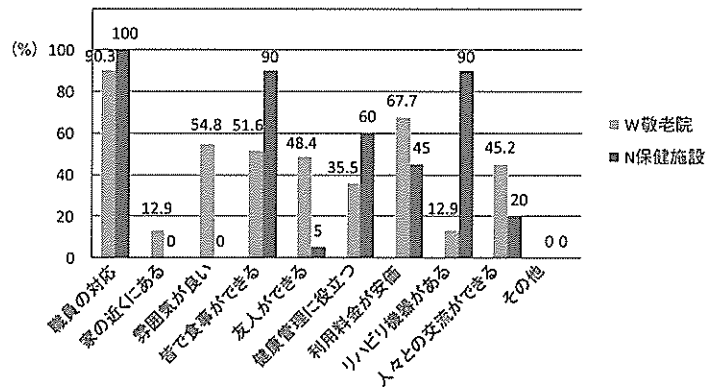


図 20 施設利用の利点（複数回答）

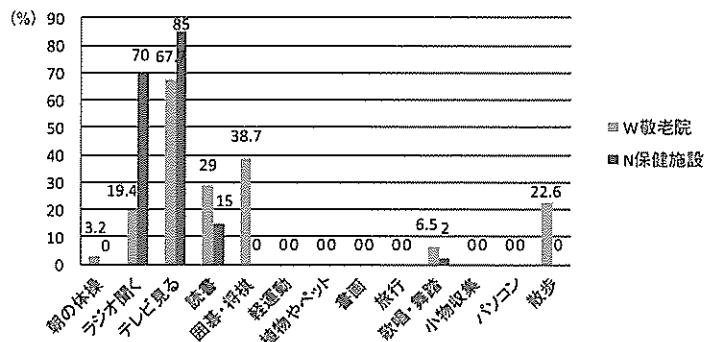


図 21 余暇時間の過ごし方（複数回答）

「ラジオを聞く」19.4%と多様な余暇を過ごしていることがわかった。一方、N 保健施設では、「ラジオを聞く」が70%、「読書」15%を占めた以外、他の余暇については活動している状況はなかった。このことは両施設の入居者の身体・精神的状況が本結果に表れていると考えられた。

## 7. 考察

ここでは、入居者の施設入所と家族関係について絞って考察する。本調査結果の図1に示したように、一般的な高齢者福祉施設であるW 敬老院では、高齢者の「自分の意思」で入所した者が全体の50%近くを占めていた。一方、N 保健施設では、施設の特徴を反映して「身体的な問題」で入居している者が70%であったが、「自分の意思」で入所した者も30%と少なくない割合であった。このように自分の意思で高齢者施設に入居する理由はどのようなものだろうか。その理由について図11にみることができる。図11は、「子どもとの同居」についての問いであるが、この問いに対してW 敬老院、N 保健施設ともに「希望しない」者の割合が、75%と多く、子どもたちとの同居を望んでいないことが明らかになった。さらに、その同居をしない主な理由についての問いの結果を図32で見るが、W 敬老院、N 保健施設ともに「子どもたちの手を煩わせたくない」の占める回答が多く、とくにリハビリテーションの設備を備えたN 保健施設において、その割合は75%と多かった。また、W 敬老院においては、「子どもたちの生活習慣に慣れない」とした回答も38.7%を占め、高齢者世代と娘、息子世代との同居が単に高齢者の身体的な理由だけでなく、若い世代との生活感覚の違い、価値観の違いなどからも前述のとおり、自らの意思で入居を決めることに繋がっていることがわかる。

中国では、伝統的に高齢者扶養は子どもたちの義務として生活の中に、当然のこととしてある。そしてその考え方は、「家庭内扶養協議書」を子どもたちが親の扶養について交わす義務があることからわかる。この協議書は、この協議書は日本の成年後見制度と似ている部分もあり、その前文に次のように記述されている。

「被扶養人の合法的權益保護、中華民族の老人を尊び、老人を敬い、老人を愛するという伝統的美徳精神の発揚、家庭介護の基礎的作用の發揮、家庭の和睦まじさ、調和の促進、被扶養人の晩年生活を実情に即して保障するため、「老人權益法」、「婚姻法」、「相続法」等の関連法律規定に基づき、扶養人と被扶養人が家庭内扶養協議書を締結する」

この協議書は、表7のとおり全18条からなり、親の扶養について身体的な介護や財産の管理など多岐にわたって明文化されている。

このように法律の規定により子どもたちは親の扶養をしていく義務については、古くは中国伝統の儒教の「孝」の精神に基づいた思想と、それを発展させた費孝通<sup>(14)</sup>の「フィードバック方式」と言う考えを中国政府が高齢者扶養の基底おいていると考えられる。「フィードバック方式」とは、親が子どもを養い、そして親が年をとったときには、子どもたち、孫たちが親、祖父母の世話をするのが当たりまえという考え方である。それに対して、「リレー方式」は、西洋の個人

表7 中国の家庭内扶養協議書の内容

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 第1条  | 扶養基本原則                       |
| 第2条  | 扶養人が被扶養人に対する経済上の扶養内容及び義務     |
| 第3条  | 扶養人が被扶養人の生活に対しておこなう世話の内容及び義務 |
| 第4条  | 扶養人が被扶養人の精神面に対する慰めの内容及び義務    |
| 第5条  | 扶養人が被扶養人に対しておこなうその他の事務の義務    |
| 第6条  | 扶養方法、周期                      |
| 第7条  | 扶養費及び共同で負担する費用額、給付方法、給付時期    |
| 第8条  | 被扶養人の財産状況およびその保護             |
| 第9条  | 被扶養人の後見人及び権利義務               |
| 第10条 | その他の扶養人が後見人に対する権利義務          |
| 第11条 | 家族会議                         |
| 第12条 | 被扶養人の財産の使用                   |
| 第13条 | 全ての扶養人が共同で分担する費用             |
| 第14条 | 被扶養人の葬儀、埋葬費用の分担および遺産相続       |
| 第15条 | 協議内容の変更条件および争議解決方法           |
| 第16条 | 違約責任                         |
| 第17条 | 扶養人の扶養義務不履行が認められる場合          |
| 第18条 | 付則                           |

主義の思想をもとにした、子どもは親から自立して生活し、また孫世代も子ども世代から独立して次の世代をつないでいく、という考えであり、ここには、親や祖父母を扶養する考え方はなく、また親や祖父母世代も初めから扶養については子どもたち世代には期待をしていない。

このように見てくると、現代中国において高齢者扶養の義務は子どもが負うことを前提に制度がつくられていると考えるのが自然である。また、城本るみ<sup>(15)</sup>は、長春市において知識層対して高齢期者の生活に対する意識調査をおこなったものであるが、その結果では、34%の者が「配偶者による世話が最も理想的」と答えている。そして、「専門の在宅介護を受ける、あるいは敬老院で生活するのが理想的」とした者は12%と少ない。さらにこの調査では、子どもとの同居についても調査をおこなっているが、その結果から、理想的なものは「子女との生活ではなく、夫婦二人の生活」と答えた者が59%と最も多かった。つまり、子どもの世話にならずに在宅で高齢者夫婦で生活する、という意識である。さらに「高齢者福祉施設」での生活を希望した者は16%、「子女との同居生活」は13%であった。すなわち子どもたちと同居して生活するよりも、高齢者福祉施設の生活を望む者の方が多かったのである。このことは、本調査の高齢者施設の入居者への調査結果からも同様であり、「子どもたちの手を煩わせたくない」という高齢者の意識である。

さらに、今回の調査を裏付けるように、2007年の全国老齡工作委員会の「中国都市部・農村部高齢者人口状況追跡調査」<sup>(16)</sup>でも、都市部の高齢者の40.8%が「子どもと一緒に住みたくない」と答えており、「子どもと一緒に住みたい」37.2%を上回っていた。そして、同調査が老後

の保障について、2000年と2006年におこなった結果の比較では、都市部においては「子どもに扶養を求める」が2000年（52.3%）から2006年（18.4%）に激減しており、反対に「年金に加入する」が2000年（23.4%）から2006年（50.3%）に倍増している。このことは、高齢化の進展とともに高齢者自身、そして今後高齢期を迎える人々の高齢者の生活像が大きく変化していることを意味している。

では、今後、中国都市部の高齢者の扶養についてどのように考えればよいのだろうか。その点では、城本<sup>(17)</sup>の分類が参考になるので、以下に引用する。

「第1は、子女が親を扶養している場合。

これはさらに、親が完全に子女に依存した生活を送っている場合と、親のほうに多少の収入があり、普段は子女に依存しながらも、たまに親が子女を助ける場合の2通りがある。

第2は、子女が親に依存しながら同居している場合である。

これも独身の子女が親と同居し、完全に収入がない場合と、子女には一定の収入がありながら、経済的な援助をはじめとして有形無形の多様な援助を親から受けている場合の2通りがある。

第3は、互惠型である。

子女と親が両者ともに経済的条件に恵まれ、かつお互いに自立が可能な場合は、扶養や養育という枠組みをこえた交流が生まれる。金銭的なものも双方向的に流動し、必要なときにお互いが助けあうというパターンである。

第4は、遊離型である。

親と子女双方が経済的に完全に独立し、金銭的な授受関係がまったくない場合である。この場合も双方の経済状況が良好だという前提が必要となる。」

以上の類型は、どの分類においても親と子どもの経済状況が大きく影響していることがわかる。現代中国の都市部の子ども夫婦を見れば、近年の住宅価格や物価の高騰などの影響から、多くの子ども（夫）が1人で住宅を購入することは難しく、親から金銭的支援を受けて購入しているケースが多い。その場合、親と同居することを前提とした住宅の購入は難しく、あくまでも自分たち夫婦と子どもの生活を念頭においた購入にならざるを得ない。親世代も子どもたちとの同居の希望はないものの、今後親たちが介護等が必要な状態になったときに、どこで、どのように子どもたちが扶養するか、そしてその空間はあるのかなど、子どもの生活に大きな影響を与える。

前述の「家庭内扶養協議書」の存在は、介護を含め、親の扶養をすべておこなうことが明記されている。しかし本論の冒頭で述べたように、北京市内においても現時点においても高齢者施設の将来的な不足が言われている。城本が述べているように、費孝通が提唱し、中国の高齢者扶養の思想的支柱となっている「フィードバック方式」は、現実的にはその形を失いつつあり、今後中国の高齢者扶養については、日本のような保険制度を確立していくのか、あるいは市場からの調達によりサービスを提供していくのか、今後の動向を注視する必要がある。しかし現段階において中国の社会保障の整備が遅々として進まない中、筆者はコミュニティにおける NGO<sup>(18)</sup>

や社区服務中心<sup>(19)</sup>などによる高齢者の支援の充実がもっとも有効なのではないかと考える。すなわち日本における在宅福祉政策と同様に、高齢者が誰もが住み慣れた地域で、他者と交流しながら生活できることが最も望ましく、そのためには都市部の街道や居民委員会における高齢者支援の政策がどのように進展していくか注目したい。

#### 謝辞

本研究は文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽研究）横浜勇樹「中国都市部における草の根 NGO の地域活動に関する研究」（課題番号：24653156）の助成を受けて実施した研究成果の一部である。ここに感謝の意を表したい。また、本調査の実施にあたっては中国老齡科学研究所の陶立群先生、河北大学・呂楠博士、中国老年学学会のスタッフに多大なご協力をいただいた。衷心より感謝申し上げます。

#### 注

- (1) 中国国際放送局のホームページ <http://japanese.cri.cn/918/2012/04/04/162s190095.htm>
- (2) 中国では高齢者を 60 歳以上の者として統計などで用いられる。これは中国では多くの労働者が 55 歳～60 歳で定年し、60 歳以上の者で就業している者が少ないためである。
- (3) 中国において老年人口指数は、生産年齢人口と 60 歳以上の高齢者人口との比率を示している。
- (4) 中華人民共和国老年人權益保障法（1996 制定）では、第 10 条で「老人扶養や主に家族によっておこなわれ、家族は老人に関心をもち世話をしなければならない。」と家族による扶養義務を明記している。  
また、第 15 条では、「扶養者は、継承権の放棄あるいはその他の理由により、扶養義務の履行を拒否することができない。扶養者が扶養義務を履行しない場合、老人は扶養者に対し扶養日の支払いを要求する権利を有数。扶養者は老人に従事不可能な労働を強制してはならない。」と家族による高齢者扶養の責任を明記している。
- (5) 畢麗傑（2010）「中国都市部における高齢者介護の社会化－北京市と上海市の事例を通じて－」『立命館国際研究』、第 23 号（1）、134-135。
- (6) 筆者が 2004 年に北京市の敬老院の入居者の調査した結果は、拙論（2005）「中国北京市の高齢者施設の入居者に関する研究」『三重中京大学短期大学部論叢』第 43 号、1-13、を参照。
- (7) 横浜勇樹（2005）『中国北京市の社区服務中心（コミュニティ・サービスセンター）と高齢者福祉施設に関する実態調査報告書』、2004 年度「梅村学園研究助成」、三重中京大学短期大学部 横浜勇樹研究室。
- (8) 鄭小華ら（2010）「中国都市部高齢者の日常生活機能低下に関連する要因」『社会福祉学』、第 51 巻第 2 号、83-95。  
李東輝（2011）「中国高齢者の生活実態と援助的ネットワーク」『奈良女子大学社会学論集』第 18 号、33-48。  
金紅梅（2011）「中国における高齢者生活支援施策の形成とその現状」『福祉のまちづくり研究』第 13 巻第 3 号、8-19。
- (9) 郭芳（2011）「中国農村地域における高齢者福祉施設に関する一考察」『評論社会科学 97』同志社大学、59-79。
- (10) 横浜勇樹（2011）「中国都市部の高齢者施設の入居者の生活状況に関する研究－入居者の仕事と収入の状況を中心に－」『三重中京大学地域社会研究所報』第 24 号、115-142。
- (11) 五保戸とは、①身寄りがいない、②生活費がない、③子どもがいない、④障害がある、⑤病気がある、のすべての状況にある者で、政府から金銭的な生活支援を受けることができる。
- (12) 2004 年に北京市の敬老院の入居者の調査した結果は、拙論（2005）「中国北京市の高齢者施設の入居

者に関する研究』『三重中京大学短期大学部論叢』第 43 号, 1-13. を参照。

- (13) 前掲<sup>(10)</sup>
- (14) 中国の著名な社会学者費孝通は、中国における子どもによる親の扶養について、独自のフィードバック方式を提唱した。
- (15) 城本るみ (2001)「中国知識層の高齢者扶養にみる親子関係」『弘前大学人文社会論叢 社会科学篇』第 5 号, 6.
- (16) (財) 自治体国際化協会 北京事務所「中国における高齢者福祉」『CLAIR REPORT』No.338, 6.
- (17) 前掲<sup>(15)</sup>, 13.
- (18) 中国の NGO の分類については、拙論 (2010)「中国都市部の草の根 NGO による高齢者支援活動」『三重中京大学短期大学部論叢』第 48 号, 22-23. を参照。
- (19) 社区服务中心は、1986 年から民政部が都市部を中心にその設置を推進している地域住民向けのサービスである。基本的なサービスに、「福祉サービス」、「住民生活サービス」、「文化サービス」、「教育サービス」、「衛生保健サービス」がある。また民間委託している家政婦紹介所が附設しているところもある。

#### 参考文献

- ・横浜勇樹 (2003)「中国北京市の高齢者施設の現状」『松阪大学短期大学論叢』第 41 号, 1-10.
- ・横浜勇樹 (2005)「中国北京市の高齢者施設の入居者に関する研究」『三重中京大学短期大学部論叢』第 43 号, 1-13.
- ・横浜勇樹 (2008)「都市部地域社会の変容とコミュニティ・サービスの展開」『現代中国の社会と福祉』第 7 章, ミネルヴァ書房.
- ・横浜勇樹 (2009)「中国の非営利組織に関する研究－定義と実践活動－」『三重中京大学短期大学部論叢』第 47 号, 29-39.
- ・鄭小華 (2009)「中国都市部における高齢者介護サービスに関する研究」『大阪府立大学』博士論文.
- ・横浜勇樹 (2010)「中国都市部の草の根 NGO による高齢者支援活動」『三重中京大学短期大学部論叢』第 48 号, 21-35.
- ・方蘇春ら (2010)「中国における高齢者福祉の現状に関する一考察」『聖泉論叢』第 18 号, 15-23.
- ・姜波 (2011)「中国全土に推進される在宅介護サービス事業の現状と課題」『川崎医療福祉学会誌』第 21 巻, 1 号, 1-9.
- ・横浜勇樹 (2011)「中国都市部の高齢者施設の入居者の生活状況に関する研究」『三重中京大学地域社会研究所報』第 24 号, 115-142.

(付録：調査票)

## 北京市社区福利服务调查项目

参观调查目的：

参观北京的社区，社会福利机构，了解社区和社会福利机构的老年人状况

以下 1, 2, 3 提问是对于老人机构，其他的提问是对于设施利用的老人

### 1. 社区福利服务机构状况.

1-1 机构名称： ( )

1-2 所有制形式： 1. 政府办 2. 民间办 3. 个人办 4. 企业或集体办 5. 其他 ( )

1-3 资金来源： 1. 政府 2. 社区 3. 民营 4. 集体 5. 其他 ( )  
( ) 元/一年

1-4 服务项目是什么： 1. 老人福利 2. 居民服务 3. 派遣保姆 4. 其他 ( )

1-5 该机构属于下列哪类性质 1. 公寓 2. 敬老院 3. 托老所 4. 护理院 5. 其他 ( )

1-6 有多少个房间？ ( ) 个

1-7 房间中有几个单人房间？ 一个月要多少钱？ ( ) 个, ( ) 元

1-8 房间中有几个双人房间？ 一个月要多少钱？ ( ) 个, ( ) 元

1-9 有别的种类房间？ 一个月要多少钱 ( ) 人房, ( ) 元  
( ) 人房, ( ) 元  
( ) 人房, ( ) 元  
( ) 人房, ( ) 元

1-10 敬老院的一个房间(床位)，一个月要多少钱？

1. 最高的 ( ) 元 2. 一般的 ( ) 元 3. 最低的 ( ) 元

### 2. 福利服务机构人员构成状况.

2-1 全院工作人员： ( ) 人

2-2 其中： 1. 男 ( ) 人 2. 女 ( ) 人

2-3 人员构成： 1. 行政管理人员 ( ) 人 2. 一般工人 ( ) 人  
3. 帮助老人 ( ) 人 4. 护理 ( ) 人 5. 医生 ( ) 人  
6. 志愿者 ( ) 人 7. 其他 ( )

2-4 在设施内的人员中，一直在这里工作的人有几个？ ( ) 人

2-5 在设施内的人员中，以前的工作退休后，当这个工作的人有几个？ ( ) 人

2-6 在设施内的人员中，有资格者是几个？ ( ) 人

2-7 本设施付近有没有别的服务机构？ 1. 有 2. 没有

2-8 有的话，那是什么样的服务？ 1. 老人服务 2. 居民服务 3. 派遣保姆 4. 其他 ( )

(100)

3. 敬老院的老人概况.

- 3-1 本院共有老年人：（ ）人  
其中： 1. 男（ ）人 2. 女（ ）人  
3-2 最低年龄：（ ）岁 最高年龄（ ）岁  
3-3 身体状况： 1. 很好（ ）人 2. 比较好（ ）人 3. 需要帮助（ ）人  
4. 需要特别帮助（ ）人

(对于设施利用的老年人调查)

4. 我们想了解您的一些基本情况.

- 4-1 性别： 1. 男 2. 女  
4-2 年龄：（ ）岁  
4-3 您在本院居住年数：（ ）岁  
4-4 以前做了什么工作： 1. 公务员 2. 公司 3. 企业 4. 事业单位 5. 家庭主妇 6. 其他（ ）  
4-5 您的文化程度： 1. 不识字 2. 小学 3. 初中 4. 中专, 高中 5. 大专以上  
4-6 您属于那个民族：（ ）  
4-7 您的婚姻状况属于下列那种情况： 1. 有配偶 2. 有配偶分居 3. 丧偶 4. 离婚 5. 未婚  
4-8 您是不是干部？ 1. 是 2. 否  
4-9 您担任过的最高职务是什么？ 1. 股级干部 2. 科级干部 3. 处级干部 4. 副局级以上干部 5. 其他  
6. 没有担任过  
4-10 您的配偶者是不是干部？ 1. 是 2. 否  
4-11 他（她）担任过的最高职务是什么？ 1. 股级干部 2. 科级干部 3. 处级干部 4. 副局级以上干部  
5. 其他 6. 没有担任过  
4-12 您是城市户口还是农村户口 1. 农业 2. 城市

5. 我们想和您聊聊工作和就业方面的事.

- 5-1 您第一次参加工作时, 年龄有多大？（ ）岁  
5-2 您离/退休时的年龄有多大？（ ）岁  
5-3 您家附近有老年职业介绍所吗？ 1. 有 2. 没有  
5-4 您认为社会上适合您做的工作机会多不多？ 1. 很多 2. 较多 3. 一般 4. 较少 5. 很少  
5-5 您的工作单位属于什么性质 1. 党政机关 2. 事业单位 3. 国有企业 4. 集体企业 5. 三资企业  
6. 民营企业

6. 面, 我们要谈谈您经济收入和参加保险方面的情况.

- 6-1 目前您每月的离/退休金有多少元？（ ）元  
6-2 您在哪里领取离/退休金？ 1. 银行 2. 邮局 3. 社会保障部门 4. 原单位 5. 孩子们 6. 这所设施  
7. 其他（ ）  
6-3 您买了哪些种类的保险（多选题） 1. 人寿险 2. 医疗保险 3. 意外伤害险 4. 财产险  
(6-3 中有无, 若被访者买了保险, 续问 6-4, 6-5, 6-6; 否则, 跳问 6-7)  
6-4 今年您有多少保险收入？（ ）元



6-5 今年买保险花了多少钱? ( ) 元

6-6 第一次是什么时候买的? ( ) 年

6-7 为了让晚年生活更有经济保障, 在下面四种选择时, 哪一种是您首先方案?  
其次选择哪一个?

选择次序

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| A 参加社会养老保险        | 第 ( ) 选择 |
| B 买商业保险第          | 第 ( ) 选择 |
| C 钱都花在子女身上, 老了靠了女 | 第 ( ) 选择 |
| D 自己储备养老          | 第 ( ) 选择 |

6-8 今年您有下列收入吗?

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1. 政府救助            | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 2. 集体救助            | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 3. 社会养老保险金         | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 4. 企业养老补贴          | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 5. 子女们给的钱          | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 6. 孙子女们(包括外孙子女)给的钱 | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 7. 其他亲戚给的钱         | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 8. 其他人情收入          | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |
| 9. 其他补贴            | 1. 有 2. 没有 ( ) 元/一个月 |

6-9 除了上面所提到的收入之外, 您今年其他收入还有多少元? ( ) 元

7. 我们想了解以下您的家庭和子女情况。

7-1 您的父母是否建在? 1. 父母建在 2. 父亲建在 3. 母亲建在 4. 父母均去世

7-2 您现在有几个子女, 几个(外)孙子女?

1. 儿子 ( ) 人 2. 儿媳 ( ) 人 3. 女儿 ( ) 人  
4. 儿婿 ( ) 人 5. (外) 孙子女 ( ) 人 6. 其他 ( ) 人

7-3 以前和您同吃同住在一起的有哪些人?

1. 配偶 2. 父母 ( ) 人 3. 儿子 ( ) 人 4. 儿媳 ( ) 人  
5. 女儿 ( ) 人 6. 儿婿 ( ) 人 7. (外) 孙子女 ( ) 人  
8. 其他 ( ) 人

7-4 现在有没有机会跟亲属交流? 1. 有 2. 没有

7-5 您最交流多的人是跟谁(亲属)?

1. 配偶 2. 父母 3. 儿子 4. 儿媳 5. 女儿 6. 儿婿 7. (外) 孙子女 8. 其他

7-6 交流中, 大部分从您自己给她(他)做联络? 还是她(他)给您做联系?

1. 从自己 2. 从她(她)

7-7 跟她(他)交流的频度是怎样?

1. 每天 2. 两, 三天1次 3. 一个星期一次 4. 一个月一次 5. 三个月一次 6. 半年一次  
7. 一年一次

7-8 交流的方法是什么?

1. 她(他)来这所设施 2. 用设施的电话 3. 写信 4. 其他 ( )

(102)

7-9 交流的时后, 跟她(他)说话中, 最多的话题是什么?

1. 简单的寒暄 2. 关于儿子的生活和健康 3. 关于孙子的生活和健康
4. 关于在设施内自己的生活会上的困难 5. 关于自己的健康 6. 社会上消息

7-10 您来敬老院的理由是什么?

1. 自己选择 2. 孩子们的意思 3. 身体的问题 4. 其他 ( )

7-11 您将来愿意跟您孩子们一起住吗? 1. 愿意 2. 不愿意

7-12 不愿意的话, 理由是什么? 1. 因为现在的生活愉快

2. 不想麻烦孩子们
3. 跟孩子们的生活不习惯
4. 跟儿媳的关系很麻烦
5. 其他 ( )

8. 我们想了解以下您的身体和健康状况.

8-1 您现在使用下列辅助工具吗(多选题) 1. 老花镜 2. 助听器 3. 拐杖 4. 轮椅

8-2 您身体状况如何? 请选择最合适的一项.

1. 可一个人乘公共车, 出租车外出. 2. 可一个人拜访左邻右舍. 3. 居家生活可一个人自理.
4. 白天基本卧床或起居. 5. 几乎从早到晚卧床, 吃饭, 洗澡, 排便需照顾.

8-3 现在, 您觉得自己的健康状况怎么样? 1. 很差 2. 较差 3. 一般 4. 较好 5. 很好

8-4 与去年相比, 您现在的身体状况发生了什么变化? 1. 变好 2. 基本不变 3. 变差 4. 时好时坏

8-5 您经常吃保健品吗? 1. 经常 2. 偶尔 3. 从不

8-6 您目前是否有慢性病吗?

1. 高血压 2. 糖尿病 3. 风湿病 4. 脑血管病 5. 哮喘 6. 心脏病 7. 肠胃病 8. 胃溃疡 9. 肾脏病
10. 其他 ( )

9. 我们想很您谈谈一些有关于服务设施.

9-1 您利用这项老人福利设施感觉怎么样?

1. 非常满意 2. 比较满意 3. 一般 4. 不太满意 5. 很不满意

※若被访者回答4或者5的话, 原因是什么? ( )

9-2 您利用这项老人福利设施感觉很好的原因是(多选题)

1. 在社区内, 很近很方便 2. 朋友多了 3. 价钱便宜 4. 负责人和服务人员态度好
5. 吃午饭和大家一起很愉快 6. 康复中心设备好 7. 对自己的健康有益 8. 气氛融洽
9. 和家人交流多了 10. 其他 ( )

10. 最后我们想跟您谈谈一些有关与日常生活.

10-1 您日常生活中感觉哪些事儿较困难?

1. 打扫卫生, 收拾房间 2. 力气活 3. 日常购物 4. 管理钱财 5. 去医院 6. 不能做饭
7. 没有和人交流的机会 8. 得急症时相应策施 9. 想有个聊天儿的伴儿
10. 不知将来是否能和儿女同住 11. 担心生活费 12. 担心身体得病 13. 其他 ( )

10-2 您平时参加下列哪些活动？（多选题）

1. 太极拳 2. 做保健操 3. 听广播 4. 看电视 5. 读书看报 6. 打麻将／打牌／下棋  
7. 球类运动 8. 看电视／听戏 9. 种花／养宠物 10. 书画 11. 旅游 12. 唱歌、跳舞  
13. 集邮及物品收藏 14. 逛公园 15. 学电脑 16. 散步

现在您想做什么？ 请自由回答

调查到此结束，感谢您的支持和合作

